



世田谷区

オール世田谷で取り組む「レガシーの創出」

2020年7月10日、47都道府県最後を飾る東京都の聖火リレーが、東京1964オリンピックの会場でもあった世田谷区の駒沢オリンピック公園中央広場からスタートします。その世田谷区は、56年ぶりとなる東京2020大会をレガシー創出のためのかけがえのない機会として、大会後を見据えた取り組みを進めています。

ようこそ！

ホストタウン世田谷へ

2020年の7月4日から8月27日まで、世田谷区ではアメリカ合衆国選手団のキャンプが予定されています。キャンプ地は、砧公園や世田谷美術館に隣接する区立大蔵運動場と大蔵第二運動場です。緑豊かな敷地内には体育館、陸上競技場、50メートルの温水プールなどの施設があり、選手村から直線で約15キロメートルとアクセスも良好です。

このキャンプで大きな役割を担うのが、区民ボランティアです。オリンピック・パラリンピックに参加するアメリカ合衆国選手団を受け入れ、つつがなく対応するため、ボラ

ンティアは英語でスムーズに對話できることが必須条件。ハードルは高めですが、メダル獲得の有力候補が多いアメリカのオリンピック・パラリンピアンを身近でサポートできるまたとない機会に、募集

定員をオーバーする応募がありました。

区はこのキャンプ実施の決定をきっかけとして、2016年6月にアメリカ合衆国のホストタウンに登録されました。登録承認以降、アメリカゆかりの元プロ野球選手などによるスポーツ交流や、オリンピックメダリストによる水泳教室など、アメリカオリンピック・パラリンピック委員会やアメリカ大使館と連携した交流事業を活発に実施。こ

の交流を通じて、大会終了後を見据えた継続的な関係の構築を目指しています。さらに、2017年12月には都内で初めて共生社会ホストタウンにも登録され、「ユニバーサルデザインのみちづくり」「障害者スポーツの推進」「心のバリアフリー」という3つの課題に積極的に取り組んでいます。これらのホストタウン登録をPRするために、区は独自にロゴマークを作成しました。桜をモチーフに世田谷の「S」を表し、赤と紺の星条旗カラーにアレンジしたロゴマークは、公募によって集まった500点を超える作品から選り抜かれ、区内小中学生により最終選考されました。ロゴに込められた想いは「心、つながり

と信頼、未来への発展」。大会が近づくにつれ、区民のホスピタリティを象徴するこのロゴマークが、区内外で活躍することでしょう。



SETAGAYA
Host Town USA

区独自のロゴマーク

ハードとソフトの両輪で世田谷の魅力の世界に発信

東京2020大会では、世田谷区上野賀にある「JRA馬事公苑」でオリンピック・パラリンピックの馬術競技が開催されます。東京1964オリンピックでも馬術競技が

荒川区

台東区

文京区

千代田区

中央区

江東区

大田区

品川区

目黒区

渋谷区

港区

新宿区

実施された歴史ある会場です。馬事公苑には最寄り駅が小田急線千歳船橋駅と経堂駅、東急世田谷線上町駅、田園都市線桜新町駅と用賀駅の5駅があり、様々なルートでアクセス可能な立地です。しかし、どの駅からおおよそ1・5キロメートル程と多少距離があるため、ここでもボランティアのサポートが大きな力となります。区では世界各国から訪れる方々を、競技の観戦や応援だけではなく、区内の観光にも結び付けられるよう多言語によるボランティアの配置を予定しています。さらに5つの最寄り駅だけに限らず、三軒茶屋や下北沢など乗降客が多い駅にも配置する予定です。通常のボランティア登録は18歳以上と規定されていますが、区のボランティアは15歳以上がエントリーできるようにしました。高校生も含め、多くの区民へアプローチして、豊かな経験を次世代へと引き継ぐ契機となることを期待しています。東京2020大会

は世田谷の魅力の世界へ発信できる絶好の機会。区をあげての温かなおもてなしが、レガシー創出の一翼となることでしょう。

また、世田谷区では、馬事公苑周辺のまちづくりのガイドラインとなる「馬事公苑界わいまちの魅力向上構想（2017年3月）」を策定し、様々な取り組みを進めています。その一環として、2017年8月には馬事公苑周辺の案内標識などの整備を区民と一緒に考えるまちあるき企画「うままちあるき」を開催しました。



「うままちあるき」の様子

視覚障害者や車いす利用者も参加して、様々な視点から安全で歩きやすく、世田谷らしさが感じられるルートの提案や改善点などの検証を行いました。その意見を参考に、公

共施設や道路などのユニバーサルデザインや、サイン整備を進めています。そしてもうひとつ、歩くのが楽しくなる取り組みがあります。最寄り5駅から馬事公苑までの道路や公園に、使用済みの馬の蹄鉄を埋め込んだ平板ブロックを一定間隔で設置し、ブロックを辿って歩けば会場に到着できるというもの。クラウドファンディングで区の内外から寄附を募り、3万円以上の寄附者は蹄鉄入り平板ブロック



蹄鉄入り平板ブロックに名前を刻印したプレート

クに名前を刻印したプレートを取り付けることができるという趣向。自分や家族のプレートを探しながら歩く道のりは、きつといつまでも思い出に残ることでしょう。

区では、この他にもオリンピック・パラリンピアンによるスポーツイベントや、トークショー、馬術のバーチャル体験、ポニーとのふれあい、映画「東京オリンピック」の上映会など、節目の時期に合わせて多彩なイベントを開催しています。2019年10月には、区内の様々な事業者や区民団体等の参加による「おもてなし・交流・参加プロジェクト」を立ち上げ、200名を超える皆さんが一同に集まるキックオフ会を開催しました。区と区民が一つになり、「オーレル世田谷」で迎える東京2020大会は、世田谷区に、未来へのかけがえのないレガシーをもたらしたいことでしょう。

